

官  
令

○東京府乙第廿八號  
本日ヨリ東京控訴裁判所ニ於テ第二期東京重罪裁判所開  
庭ノ趣向所ヨリ通知有之候條此旨告示候事  
明治十六年四月二日 東京府知事芳川顯正

○正誤 東京府乙第廿七號告下初頃五月三十ノ下一ヲ脱

諸 達 同 公 報

○内務省ニ第十三號  
府縣 (東京府ヲ除ク)  
遺失物等公賣ニ係ル金額届方之義自今一週年度分頭總メ  
明細書相添エ毎年八月三十一日限届出ベシ此旨相達候事  
明治十六年四月一日 内務卿山田顯義

○海軍省丙第三十七號  
海軍一般  
兵學機關同校生徒手當金及儀服其他給與ノ方法別表ノ通  
相定ム此旨相達候事 (別表略ス)

海軍卿河村純義代理

明治十六年三月三十日  
○東京府丙第四十二號  
根室縣郡長委任條件左ノ通り相定候官同縣廳ヨリ通知之  
アリ候條此段相達候事

明治十六年三月卅一日 東京府知事芳川顯正

叙 任 賞 勳

|                    |              |           |
|--------------------|--------------|-----------|
| ○四月二日分             |              |           |
| 叙從五位               |              |           |
| ○三月十五日分            |              |           |
| 補權中教正              |              |           |
| ○全月十三日分            | 遠山 友善        |           |
| 依願免本官              | 吉田神社宮司       | 正三位 西洞院信堅 |
| 全 月山神社宮司出羽湯殿山岡神社宮司 | 吉田 良義        |           |
| 補少教正               | 物集 高見        |           |
| ○二月廿四日分            |              |           |
| 補權少教正              |              |           |
| ○全月十日分             | 剝事補 山口 長信    |           |
| 住陸軍馬醫補             | 權少教正 石原 儘宣   |           |
| ○全月六日分             | 大講義 安國 清     |           |
| 住陸軍々醫補             | 勤七等 山中 曾禰 親之 |           |
| 住陸軍工兵少佐            | 田中 楊蘆原守之     |           |
| 陸軍工兵大尉正七位          | 古川 信         |           |

余任賞

茂ノ法ヲ誤ラザル歟政治社會ノ古木モ亦タ常ニ日光ヲ遮ラズ・テ新木ニ與フルコ長茂ノ隠地ヲ以テシ新古共ニ鬱蒼ノ色ヲ呈スルコト實ニ天下ノ美觀ナラズヤ若シ夫レ民間ノ少政事家ニ手足ヲ伸フルノ地ナクシテ其狀ント牀下ノ筈ニ異ナラザルキヘコノ筈ハ其凌辱ノ志氣ヲ洩ラス所ナク或ハ牀ヲ破テ其頭角ヲ露ハスノ日モアラン是レ經世家ノ深ク恐ル、所ナリ宋ノ蘇軾等ニ義士ノ法ヲ論シカ曰ク智勇辨力コノ四者ニ皆ナ天民ノ秀傑ナルモノナリ類子衣食ヲ惡クシテ以テ人ヲ養フ能ハズ皆ナ人ヲ役シテ以テ自ラ養フモノナリ故ニ先王天下ノ富貴ヲ分テコノ四者ト之ア共ニスコノ四者職ニ失ハザレバ則チ民靖シ四者異ナリト雖ニ先王俗ニ因テ法ヲ設ケ一ヨ出テシム三代以下學ニ出テ、戰國ヨリ秦ニ至ルマテ客ニ出ア、漢以後郡縣吏ニ出テ、魏晉以來九品中正ニ出テ、隋唐ヨリ宋ニ至ルマテ科舉ニ出ヅト、今ヤ世局目ヲ新ニ擊劍扛鼎勇力ヲ以テ政機ニ關スルモノアラズト雖ニ民間ノ政事家ト稱スル者ノ中ニモ世事ノ薄氷ヲ踏ミ人情波瀾ノ間ニ浮沈シ智辨ヲ以テ天下ノ務ニ應セントスル者亦少・カラズシテ所謂天民ノ秀傑ナル者ナキニアラズ今コノ秀傑ナルモノニ其頭角ヲ出スノ地ニ與ヘ大職ヲ失フテ天下ノ富貴ニ與カルチ得ザラシムルハ決シテ老成ノ策ニアラズ彼レ既ニ其職ヲ失フ是ニ於テ政府ニ敵視シ尺寸ノ猶豫ヲ許サズシテ之レヲ攻撃シ畢竟政府ノ運動ニ難澁ナラシムルノ結果ヲ呈スルノミ

雜報

チ後レジト互ニ相競選スルハ實ニ一大困難事ナリコノ困難ノ日ニ當テ内ニ區々ノ小争チ開キ政府セ内顧ノ恩アリテ一意外敵ト競争スルナ得好機ノ眼前ナ漢クルアルモゼナラザレバ世界文明ノ進歩ハ我レナ伏タズ遂ニ人後ニ聳若シテ外國ノ鼻息ナ仰グニ至ラン今日ハ國內ノ小爭辱ナ争フノ時ニアラザルナリ、局部ノ利害ノタメニ全面ノ利害ニ犠牲ニスルノ時ニアラザルナリ、内國ノ改モニ權ノタメナリ其靜謐セ國權ノタメナリ榮譽財產及ビ生死モ國權ノタメコハ之ヲ觀ミルニ足ラス兄弟鬪於牆、外防其侮トヘ正ニ今日ノ急務コシテ日本人民ハ日本全國ナ以テ日本以外ノ敵ト争フノ覺悟ナカルベカラザンナリ夫レ虎狼後ニ立ツラハ貓大ノ前ニ横ハルナ間ハズ今日ハ國外ノ虎狼耽々トテ隙ナ伺フノ秋ナレハ復タ國內ノ貓大チ顧ニルニ逃アル可ラズ目下ノ急務ハ人爵ノ授與ノ學者ニテノルニ逃アル可ラズ目下ノ急務ハ人爵ノ授與ノ學者農工商ニ及ホシテ政事ノ熱心ナ殖産興業發明工大ノ域ニシテノルニ逃アル可ラズ目下ノ急務ハ人爵ノ授與ノ學者移シ一方ニハ政事家ノ悲憤、誠シ其軋轔、防ギ方ニハ富貴ノ増進ヲ促テ利益ヲ謀リ、老少ノ政事家ヲ混和シテノルニ逃アル可ラズ目下ノ急務ハ人爵ノ授與ノ學者政變ヲ生セシメザルコアリ今日ニ當テ内國ノ治安ヲ保ナメズソハ文明ノ活劇場ニ先鞭、着ケルムヘコナ得ザルベシ賴山陽書テ蘇東坡ヲ評シ、曰ク東坡胸中常ニ天下ノ二字アリト、雖既タリ世上小膽ノ人、區々ノ得失ナ齒牙ニ掛ケテ大事ノ前ニ小事ナ忘ル、ナ知フズ、日本國民タラノモノハ胸ニ天下ノ二字ヲ銘シ日本全國ノ利害ナ標準トシテノルニハ利害ノタメニ運動セント我輩ノ希望ナテ己マサル所ナシを以テ各參議ふる處會議を開かれしら未だ決議が過れざるやヌ聞く

五

へ差し出す事  
○木國年中  
使ウチア  
れて遇日甚  
人が其來物  
て之を差す  
北辰自由黨  
廿一日石川氏  
氏ハ一應御  
二十三日終び  
所用より  
森藏の二  
れ即日出發  
○出京　新  
一昨二日上  
○横濱株  
休業と云く  
仲買人等ハ  
ごとありか  
仲買入等ハ  
當と得を如  
一百三四四十  
りとて懇親  
お目下横濱  
日前の事を  
其實決して  
の両権のみ  
賣りて金額  
帯巾の代を  
換せざる間  
再び内國よ  
らぞ此胸據  
ゑあり既よ  
だよる上東  
に事なり依  
ふハ一切免  
取引所の役  
此事を顧付  
の通り無枕  
あとあかる  
落の色ある  
○株式取引  
買人申合ひ